

第1回家庭教育支援指導者等研修 実施レポート

日時：令和5年5月25日（水）10時～15時 参加者：45名（うち市町村等から21名）
会場：秋田県生涯学習センター講堂

「持続可能な家庭教育支援について考えよう」というテーマのもと、今年度最初の研修を行いました。家庭教育支援の基本的態度及び支援体制等について学んだり、持続可能な家庭教育支援に向けてどのような目標をもち、どのような活動に取り組んでいるのかをグループごとに意見交流したりしました。特に、家庭教育のスタートである「命」について学んだことで、保護者に寄り添うことの重要性に気付かされる研修となりました。

【午前の部 ①講話 ②意見交流】

秋田県生涯学習センター社会教育主事の **佐藤 隆道** が「保護者に寄り添う家庭教育支援」と題して話をしました。国勢調査等のデータに見る家庭の現況から、いま子育て世帯が少数派になっていること、子どもの貧困問題をはじめ児童生徒を取り巻く問題が多様化していることなど、不安な保護者に寄り添うことが必要だと説明しました。子育てに悩む保護者の価値観を「うまくできて当たり前」から「完璧にできなくて当たり前」とアップデートしていくこと、支援チームとして「キャッチ・きく・つなぐ」を大事にし、保護者をサポートしていくことの大切さを伝えました。

後半の意見交流では、「持続可能な家庭教育支援」についてグループごとに話し合いました。話題は「持続可能な家庭教育支援」の意見交流にとどまらず、参加者それぞれの市町村の活動についての情報交換にも発展していました。また、途中でグループのメンバーを入れ替えて話し合ったことで、より多くの取組を知り、多くの人とつながる機会となったようです。



【午前の部 参加者アンケートより】（抜粋）

- ・色々な立場の人と会話ができて、家庭教育支援について視野を広げることができました。特に市民目線で考えることが持続可能な活動になることに気付きました。
- ・今の子育ての状況を改めて復習することができました。意見交流の中で支援チームの方の話が参考になりました。行政とチームとのかかわり方がどうあれば良いか考えさせられました。

【午後の部 講話】



大館市助産院イスキア院長 **菅原 光子** 氏に、『「自分らしい子育て」への支援～保護者に寄り添う支援の在り方について～』と題してお話いただきました。講話のはじめに、児童・生徒・保護者を対象に菅原氏が学校の授業などで行っている「いのちの講座」を再現してもらいました。内容は、菅原氏がこれまで携わった多くの親子とのふれあいで得られた経験や、生まれてきた命と最初に向き合う家族に寄り添うことの意義や、生まれてきた命と失われてしまう命などについての生々しいものも盛り込まれていました。「生まれてきてくれてありがとう」と「生んでくれてありがとう」という親子のやりとりの話では、涙ぐむ参加者も多く見られました。

続いて、保護者への支援についての想いを話され、「おんぶ紐の使い方が分からない人が増えてきている。昔であれば一緒に住んでいるおばあちゃんや近所のおばさん方に教えてもらっていた。地域や人とのつながりがうすれている現在では、育児についての伝承がうすくなっている」と述べられました。そして、必要な情報は積極的に提供すべきであり、支援者同士も連携の必要があることを説明され、参加者は大きく頷いていました。最後に、「子育ては大変だけど楽しいと思ってほしい」「子育てに100点はない」「子ども一人一人違うし、親も一人一人違うからみんなちがってみんないい」とまとめられ、家庭教育支援チームの在り方に大きな示唆を与えてくれました。

【午後の部 参加者アンケートより】（抜粋）

- ・助産師として現場での関わりから生の声（子育ての本質）を聞くことができ、子育てをしている人の立場で考えなくてはいけないことを再考できました。家庭教育支援の原点を学ぶことが出来ました。
- ・いのちを大切に育てる心の育み、とてもすばらしい講義ありがとうございました。家庭教育支援だけでなく自殺予防の支援もしているのととても勉強になりました。